

## まえがき

私が中学校英語教員として勤務させていただいた昭和から平成にかけて、学習指導要領における英語科の目標が「コミュニケーション能力の育成」にシフトいたしました。しかし、その学習成果や指導効果を検証するためのテストは、英語によるコミュニケーション能力を測定する形式・内容にはなかなか移行せず、「指導と評価の一体化」は遅々として進みませんでした。その原因の1つとして、日本では伝統的に指導法に関する研究や実践が中心で、評価に関してはあまり重要視されず、中学校や高等学校でコミュニケーション・テストを導入するためのノウハウを持つ教員は、私を含めほとんどいなかったという実情がありました。

今回の学習指導要領において、「指導と評価の一体化」の必要性はより一層明確なものとなり、その実践に向けて英語科のテストや評価に関する解説書等に対するニーズが増大しています。本書は小学校・中学校・高等学校で英語を指導されている先生方、特に教壇に立たれて比較的日の浅い先生方や、これから英語教員になろうとしている学生たちが、コミュニケーション重視の英語教育における評価について疑問に思われたり、テスト作成等においてお困りになるような問題点を取り上げて、Q & A形式で簡潔明瞭に回答するように編集しました。質問の内容は、テストや評価に関する専門用語の他に、テスト作成の具体的な方法や手順、テストの実施および実施後の注意点、さらに英語外部検定試験等の標準化されたテスト、パフォーマンス評価、代替評価などにも及んでいます。いずれも、英語科における評価に関する基礎知識として、ぜひ知っておいていただきたい内容を質問形式で取り上げるようにしました。

日々の授業等で大変お忙しい先生方がテストを作成する際に、短時間で必要事項を確認・参考にすることができるように実用性を重視し、解答は数行

に要約して解説はあまり専門的にならないように、わかりやすく簡潔に記述することを心がけました。また、やや専門的な内容については参考として補足説明を行いました。本書が、英語によるコミュニケーション能力の測定・評価という目的に合ったテストづくりのご参考になることを心から願っています。

なお、本書は2022年度明治学院大学学術振興基金による助成を受けて刊行させていただきました。ここに記して、感謝を申し上げます。

令和4年10月

杉田 由仁

英語教育評価のための  
実用Q & A

---

目 次

まえがき	1
<b>I 評価の概念、種類と目的、評価と測定</b>	<b>10</b>
1 指導と評価の一体化	10
2 テスト、アセスメント、評価	13
3 テストの種類と目的	15
4 評価と測定	17
<b>II テスト作成の原則と注意点、テストの形式</b>	<b>19</b>
5 テストに必要な要素	19
6 テストの信頼性	22
7 テストの妥当性	25
8 テスト作成の原則	27
9 テスト作成・実施上の注意点	31
10 テストの形式	33
11 テスト実施後の注意点	38
<b>III 基準準拠評価、評価規準と評価基準</b>	<b>40</b>
12 集団準拠評価	40
13 基準準拠評価	42
14 評価規準と評価基準 (1)	44
15 評価規準と評価基準 (2)	46
<b>IV 標準化されたテスト、パフォーマンス評価、代替評価</b>	<b>58</b>
16 標準化されたテスト	58
17 標準化されたテストの開発	61
18 標準化されたテストとパフォーマンス評価	63
19 標準化されたテストと代替評価	66
20 テストの公平性	69

<b>V</b>	<b>テスト作成の実際</b> .....	71
	21 「聞くこと」の評価 (1)	71
	22 「聞くこと」の評価 (2)	74
	23 「聞くこと」の評価 (3)	76
	24 「話すこと」の評価 (1)	78
	25 「話すこと」の評価 (2)	81
	26 「話すこと」の評価 (3)	84
	27 「話すこと」の評価 (4)	86
	28 「読むこと」の評価 (1)	88
	29 「読むこと」の評価 (2)	91
	20 「読むこと」の評価 (3)	93
	31 「書くこと」の評価 (1)	95
	32 「書くこと」の評価 (2)	98
	33 「書くこと」の評価 (3)	100
	34 文法能力の評価 (1)	102
	35 文法能力の評価 (2)	104
	36 文法能力の評価 (3)	106
	37 語彙力の評価 (1)	108
	38 語彙力の評価 (2)	110
	39 音声知識の評価 (1)	113
	40 音声知識の評価 (2)	115
<b>VI</b>	<b>英語テスト作成の Dos &amp; Don'ts</b> .....	117
	41 英語テスト作成の Dos & Don'ts (1)	117
	42 英語テスト作成の Dos & Don'ts (2)	119
	43 英語テスト作成の Dos & Don'ts (3)	121
	44 英語テスト作成の Dos & Don'ts (4)	123
	45 英語テスト作成の Dos & Don'ts (5)	125
	<b>付録 技能・領域別テスト問題の実例</b> .....	127
	参考文献 .....	139
	索引 .....	148

## 実用 Q&A 質問項目一覧

### I 評価の概念、種類と目的、評価と測定

- Q.1 教室での指導と一体化した評価を行うためにはどのようにすればよいでしょうか。
- Q.2 テスト、アセスメント、評価の違いについて教えてください。
- Q.3 テストにはどのような種類があるか教えてください。
- Q.4 評価と測定の違いについて教えてください。

### II テスト作成の原則と注意点、テストの形式

- Q.5 よい言語テストの条件について教えてください。
- Q.6 言語テストの信頼性を高める手立てについて教えてください。
- Q.7 言語テストの妥当性を高める手立てについて教えてください。
- Q.8 言語テスト作成の手順について教えてください。
- Q.9 テストを作成し、実施する上での注意点とは何ですか。
- Q.10 4技能や語彙・文法能力の測定に適したテスト形式とは何ですか。
- Q.11 テスト実施後に行うべきことと注意点について教えてください。

### III 基準準拠評価、評価規準と評価基準

- Q.12 集団準拠評価とはどのような評価か教えてください。
- Q.13 基準準拠評価とはどのような評価か教えてください。
- Q.14 評価規準と評価基準の違いを教えてください。
- Q.15 評価規準の作成と評価基準の設定の仕方について教えてください。

### IV 標準化されたテスト、パフォーマンス評価、代替評価

- Q.16 標準化されたテストとはどのようなテストですか。
- Q.17 標準化されたテストの開発手順を教えてください。
- Q.18 標準化されたテストとパフォーマンス評価の違いを教えてください。
- Q.19 標準化されたテストと代替評価の違いを教えてください。
- Q.20 公平なテストとはどのようなテストですか。

## V テスト作成の実際

- Q.21 「聞くこと」の評価について教えてください。
- Q.22 リスニング・テストの作成方法を教えてください。
- Q.23 リスニング・テストの観点別問題例を紹介してください。
- Q.24 「話すこと(やり取り)」の評価について教えてください。
- Q.25 「話すこと(発表)」の評価について教えてください。
- Q.26 スピーキング・テストの作成方法を教えてください。
- Q.27 スピーキング・テストの観点別問題例を紹介してください。
- Q.28 「読むこと」の評価について教えてください。
- Q.29 リーディング・テストの作成方法を教えてください。
- Q.30 リーディング・テストの観点別問題例を紹介してください。
- Q.31 「書くこと」の評価について教えてください。
- Q.32 ライティング・テストの作成方法を教えてください。
- Q.33 ライティング・テストの観点別問題例を紹介してください。
- Q.34 文法能力の評価について教えてください。
- Q.35 文法テストの作成方法を教えてください。
- Q.36 文法テストの問題例を紹介してください。
- Q.37 語彙力の評価について教えてください。
- Q.38 語彙テストの作成方法を教えてください。
- Q.39 音声知識の評価について教えてください。
- Q.40 音声テストの作成方法を教えてください。

## VI 英語テスト作成の Dos & Don'ts

- Q.41 テスト出題に際しての注意点について教えてください。
- Q.42 テストによる測定を効率的に行う手立てについて教えてください。
- Q.43 テスト結果として望ましい得点分布について教えてください。
- Q.44 テスト結果をデータ化する方法について教えてください。
- Q.45 テスト作成の時期について教えてください。





英語教育評価のための  
実用Q & A

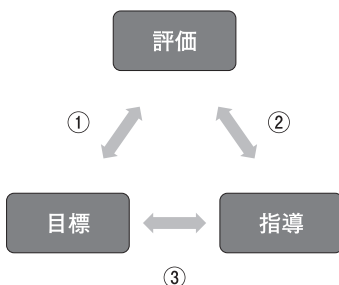
## I

## 評価の概念、種類と目的、評価と測定

### 1 指導と評価の一体化

**Q.** 教室での指導と一体化した評価を行うためにはどのようにすればよいでしょうか。

**A.** 図の①～③の手順に沿って、指導と評価を行うようにします。



#### 《解説》

##### ①「評価」に基づく「目標」の設定

評価を意識して、生徒のレベルに合った適正な到達目標の設定を心がけます。具体的には、テスト結果等の評価データに基づき、生徒の能力や実態を正確に把握して、「知識・技能」の領域に偏らず、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の各領域に示されている観点別目標との関連性を考慮して、多様な到達目標を設定するようにします。

##### ②「評価」に基づく「指導」の在り方

指導後に実施する評価を意識して、教室における指導項目を明確化することにより、指導と評価の整合性を確保するようにします。生徒は指導項目の

習得に際して最適な指導法を求めていますので、指導方法の適否を絶えず意識して指導法の工夫に取り組む必要があります。

### ③「指導」と一体化した「評価」の実施方法

指導した内容の何を具体的に測定・評価するのかを意識して試験問題や課題の作成を行い、必要に応じて実技等の評価方法も工夫します。生徒の学習成果の集大成にふさわしい問題項目のみを厳選し、多彩な出題形式により、さまざまな角度から生徒の到達度を評価します。また、生徒の達成度に基づいて、教師自身の指導についても検証を行うようにします。

## 《参 考》

平成29年改訂の小学校・中学校および高等学校学習指導要領総則においては、学習評価の充実について以下のように示されています。

- ・ 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。
- ・ 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

(『中学校学習指導要領』第1章総則 第3教育課程の実施と学習評価 p.24)

また、小学校・中学校および高等学校学習指導要領解説においては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた外国語科・外国語の授業改善について以下のように示されています。